※令和４年度以降入学生用

学校番号	４０１

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	音楽表現	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自作プリント等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歌唱、器楽、創作などの諸活動を通して、個々の演奏技術の伸長を図るとともに、自らを表現する力を育てましょう。音楽を通して思いを聴き手に伝えるためには、音色作りや発声のテクニック、安定した音やリズムを奏でられる基本技能の習得などの土台作りが大切になります。この土台をしっかりと作ったうえで言葉の扱い方やニュアンスの加え方を学び、試行錯誤しながら自分の音楽を作りましょう。

また、音楽表現では音楽Ⅰ・Ⅱよりも創作をする機会が増えます。編曲技術を学ぶことで、楽曲における編曲の重要性や編曲のおもしろさ、可能性に気付くことと思います。

2　学習の到達目標

歌唱、器楽、創作などの諸活動を通して、個々の演奏技術の伸長を図るとともに、自らを表現する力を育成することをめざす。

・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な演奏技能、音色作り、発声テクニックの習得。
・楽曲の様式や演奏形態を理解させ、演奏や創作の表現を工夫させる。
・発表を通し、他者の表現の工夫を感じ取り、次の演奏につなげる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・表現するための土台になる正しい発声や演奏技術を身につけている。 ・楽曲の様式や演奏形態、楽典の知識、編曲の技術を身につけている。	・ハーモニーや和音、リズムの働きを感受しながら、表現意図をもって編曲をしている。 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、表現意図をもって演奏している。 ・発表を通して、他者の表現の工夫を感じ取り、味わっている。	・主体的に学習活動に取り組もうとしている。 ・他者と協力しながら表現活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	アカペラに挑戦	【歌唱】【鑑賞】 「ロマンチストの豚」 「さびしいカシの木」 発声、ハーモニーの作り方を学ばせる。また詩の内容や曲にふさわしい表現について模索させる。	a:【知①】曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。（歌唱） 【技①】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。（歌唱） 【知②】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりとその演奏効果について理解している。（鑑賞） b:【思①】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。（歌唱） 【思②】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。（鑑賞） c: 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱・鑑賞）	ワークシート 実技テスト 振り返りレポート	実技テスト 振り返りレポート	観察 実技テスト 振り返りレポート

※令和４年度以降入学生用

1学期	創作（編曲）	（１）童謡や唱歌を題材にアレンジ技法を学ぶ。 ①メロディーにハーモニーをつける手法 ②コードを使って伴奏を付ける手法 ③フィルインを入れる手法 ④移調の方法 （２）それまでに習得した手法を組み合わせて自由課題の編曲を行う。	a:【知】音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解を深めている。 【技】創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、編曲をする技能を身に付け、創作で表している。 b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて独自の表現意図をもっている。 c:音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴に関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	発表 観察 ワークシート	発表 観察 ワークシート	発表 観察 ワークシート

※令和４年度以降入学生用

２学期	クラシックギターで様々な曲を演奏しよう	レベルに応じて選曲させ、ギター奏法と表現を学ばせる。 「禁じられた遊び」（独奏） 「空も飛べるはず」 （弾き語り） 「カントリーロード」 （弾き語り）	a:【知】曲想とギターの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、全体の調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 b: 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて独自の表現意図をもっている。 c: 曲想とギターの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	振り返りレポート 実技テスト	実技テスト 振り返りレポート	観察 実技テスト 振り返りレポート

※令和４年度以降入学生用

２学期	卒業発表に向けての取り組み	【歌唱】【器楽】【創作】【鑑賞】 歌唱、器楽、創作より各人テーマを決めさせ、取り組ませる。	a：【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。（歌唱、器楽、創作、鑑賞） 【技①】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能、及び器楽アンサンブルの表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、演奏で表現している。（歌唱、器楽） 【技②】音型、リズム、速度、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように楽曲の雰囲気にあった編曲をするかについて表現意図をもっている。（創作） b：【思①】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏・編曲するかについて表現意図をもっている。（歌唱、器楽、創作） 【思②】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。（鑑賞） c:曲想と楽器の音色や奏法との関わり、及び他者との調和や表現形態の特徴を生かして演奏・編曲することに関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。（歌唱、器楽、創作、鑑賞）	ワークシート 発表	発表 振り返りレポート	観察 実技テスト ワークシート

※令和４年度以降入学生用

３学期	リズミックパフォーマンスに挑戦しよう	【器楽】 リズミックパフォーマンス作品の演奏	a:【知】曲想と手拍子や足踏みの音色や奏法との関わりについて理解している。（器楽） 【技】リズムを読譜し、表現することができている。また創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、演奏している。（器楽） b:【思】音色、リズム、速度、テクスチュア。強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。（器楽） c: 音色、リズム、速度、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら他者との調和を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。(器楽)	ワークシート 作品	作品 振り返りレポート	観察 作品 ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度